

2005年6月26日



特定非営利活動法人
フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
2004年度活動報告書

〒110-0015東京都台東区東上野1-20-6丸幸ビル3F
TEL:03-3835-0221 FAX:03-3835-7555
Email:info@ftcj.com URL:<http://www.ftcj.com>

目 次

- (1) 管理部の活動実績
 - 翻訳事業の活動実績
 - 問い合わせの活動実績
 - メンバー管理の活動実績
 - 総務部等の活動実績
- (2) 事業部の活動実績
 - 国内事業の活動実績
 - 子ども活動応援事業の活動実績
 - 夏キャンプ事業の活動実績
 - 外部ネットワークの活動実績
 - イベントの活動実績
 - ニュースレターの活動実績
 - 海外事業の活動実績
 - インド学校建設事業の事業報告
 - FTCJ関東学院サポーターの事業報告
 - フィリピン支援事業の事業報告

(1) 管理部の活動実績

(a) 翻訳事業について

井上 皓子

翻訳事業の目的と役割：

海外からの英語の情報を日本語に翻訳し、FTCJの情報として全てのメンバーと共有します。

たとえば、プレダ基金からのニュースレターや、海外メディアの児童労働についての記事を日本語にして、みなさんにもわかりやすく伝えようとするプロジェクトです。

また、日本からの情報を英語にして、海外に「FTCJってこんなことしています」と伝えるお手伝いをします。

事業の計画：

年間を通して企画は特になく、ほかの事業から、「この情報を日本語にしてください」と頼まれたときに、頼まれたものを日本語にしていきます。あとは、各事業で解説を付け加えたりして、みなさんのもとに情報を届けられます。

今年度は、みなさんにより多くの情報が届くことを目標にしています。

また、今年度より、今までは日本語版しかなかったお知らせの書類やホームページの英語版を作り、よりたくさんの人（海外に住む人や、日本に住む外国の人）にFTCJを知ってもらおうプロジェクトをはじめようと思っています。

(b) 問い合わせ事業の活動実績について

伴野 保志

問い合わせ事業の目的と役割：

毎日、みなさまからのメール、お手紙、ファックス、電話によるお問い合わせを受け付け、「会員になりたい。」、「ビデオ、資料を送ってほしい。」、「児童労働について、教えてほしい。」などのさまざまな、ご要望を、FTCJの事務局内外で、いちばん、よくお答えできるであろうスタッフに、連絡、依頼して、割り振る役目をになっています。

事業の2004年度の反省点と2005年度の計画：

年間を通して、きちんと、もれなく、且つなるべく早くお答えられるように、努めていましたが、事務所に常駐のスタッフがいないこともあり、かならずしも、じゅうぶんでは、ありませんでした。

今年度は、みなさんにより早く、確実にお答えられるように、事務局のスタッフの「お当番制」を取り、週2回は、事務所にだれかがいて、早く対応できるようにします。

(c) メンバー管理事業の活動実績について

伴野 保志

メンバー管理の目的と役割：

毎日、みなさまからのお問い合わせの情報を管理し、会員としての登録簿の作成などを行い、NPOとして、信頼できる管理をこころがけています。

昨年度から施行された個人情報保護法についても、今後、きちんと研究し、それに則ったみなさまの個人情報の管理をおこなっていきます。

(参考資料) FTCJメンバーは現在、全国に何人くらいいますか？

一般会員 (子ども 240人、学生 57人、大人 7人、)

正会員 (子ども 2人、学生 3人、大人 8人)

賛助会員 (個人 1人、団体 0団体)

小学生 20人 中学生 31人、高校生 215人

高等専門学校生 2人、大学生 134人

大人 61人、FTCJ協力者 94人

(d) 事務局総務部などの活動実績について

伴野保志

2004年2月よりACE、国際子ども権利センターとともに、東京都台東区内の事務所を開設しました。

事務所を開設して、活動の拠点とすることができ、内外との連携をよりスムーズにすることができました。

パソコン、LAN、印刷機器、などの事務所の設備、機器などの面で、もう少し改善すべきものもあります。

子どもメンバーから、パソコンなどの貸し出しができないかなどのご要望についても、検討していきたいとおもいます。

(2) 事業部－国内事業の活動実績

西垣春奈

(a) 子ども活動応援事業

FTCJ子ども活動応援事業の目的は、子どもたちに気付きのきっかけを与え、カづけ、スキルを身につける機会を提供することです。

(i) 子ども主体プロジェクト

子どもたちだけで企画したプロジェクトを、子どもメンバーだけで進めています。

なかなか一歩を踏み出せない子どもにとっても活動に参加しやすい環境になっています。

子ども主体プロジェクトのテーマとしては、カンボジア支援と、全国キャンペーンがあります。

カンボジアプロジェクト:

特定募金やチャリティーコンサートなどを通して、カンボジアNGO「HCC」にシェルター建設資材購入資金を寄付しました。寄付の使途が当初の予定の車購入費からシェルター建設費補助に募金の使い道を変更した。

全国キャンペーン:

FTCJメンバーが集まれる全国キャンペーンを計画しています。

(ii) 子ども活動家サポート、人材育成事業

自分たちの力で世界を変えようとする子どもたちが、「考えたこと、思ったこと」を行動に移せるように、ワークショップ、キャンプなどを行って情報・スキル・仲間と出会う機会を提供します。

子ども活動家サポート、人材育成事業のテーマとしては、・国内キャンプ ・海外スタディーツアー ・ワークショップ／セミナー・相談室 ・トレーナー育成があります。

(iii) 啓蒙活動

「Kids Can!(子どもだってできる!)」、子どもが秘めている無限の可能性を、子どもにも大人にも気づいてもらうために、啓蒙活動を行っています。

啓蒙活動のテーマとしては、・各地講演 ・出版があります。

(b) 夏キャンプ事業の活動実績

町井望

2004年8月6,7,8日に行われた「FTCJ秩父夏キャンプ2004」の報告

夏キャンプの目的

参加者同士の交流と、国際問題への視野を広げること、参加者のみんなが1年間の行動計画をつくることでした。

どんなキャンプだったか

参加者は15人で、スタッフは事務局（じむきょく）のメンバーと拓殖大学のメンバーが15人でした。

場所は埼玉県、秩父（ちちぶ）の青少年野外活動センターとで行いました。

感想

この夏キャンプ3日間を通して、参加者のみんなの顔が変わっていくのがわかりました。最初はすこし緊張（きんちょう）していましたが、だんだんとうちとけて仲良くなりました。スタッフも最初は緊張（きんちょう）していましたが、2日目くらいからほぐれてきました。

アンケートによると一番よかったのは、参加者同士のフリートークだったようです。フリートーク後からみんなが元気になるのがわかって、お互いの活動の経験を話し合うことの大切さを感じました。また、野外炊飯も大人気でした！

楽しむことも大切です。

行動計画は2日間かけて考えられたので、細かい計画が立てられました。

この行動計画は1年後（2005年8月）に、実行（じっこう）できたかを参加者が報告することになっています。どんな行動を起こしているか、報告が楽しみです☆また参加者同士のメーリングリストもできました。

キャンプをふりかえって

全体の感想を見ると、参加者のみなさんが本当に充実した3日間を送ってくれたようで、「来てよかった！」「またみんなに会いたい！」という感想がほとんどでした。スタッフの私たちにとっても学ぶことの多い3日間でした。



(c) 外部ネットワークの活動実績と今後の課題

伴野保志

FTCJは、2004年度も引き続き、以下の団体に加入しました。

児童労働ネットワーク（CL-Net）

教育NGOネットワーク（JNNE）

国際協力NGOセンター（JANIC）

世界の子どもに教育をキャンペーン実行委員会

今年も、引き続き、これらの団体に引き続き、加入していきます。

他との団体と共に考え、連帯し行動を起こしていくことが、児童労働をなくすこと

の大きな力となるとおもいます。日本国内だけでなく海外のさまざまな、政府、NGO、企業、労働組合、市民とともに考え、一致できるところは協力し合って、連携による枠を超えた取り組んでいくことが、必要です。そのために2005年度も、さらに、分野を超えた団体、個人をつなぐネットワークをさらに推し進めていきます。

又、今まで、前調査や準備が、かならずしも十分でなかったため得られなかった助成団体や企業から、事業を推進するために必要な資金の助成を受けられるよう、体制を強化し、企画していきます。

(d) イベントの活動実績

露久保雅樹

2004年 9月12日(日)NGOまつりin上野

元沖縄から仲尾美希さんと、琉球大学1年生伊舎堂裕子さんが、米軍ヘリが沖縄国際大学に墜落した問題について来場者らとディスカッションをしました。また、墜落時の大学内や大学周辺の写真や、沖縄国際大学の学生が書いた詩を貼り出しました。



2004年10月 2日(土)ー3日(日)国際協力フェスティバルin日比谷公園

展示ブースでは、FTCJの団体紹介や、活動の紹介、FTCJの本や、フィリピンのフェアトレード商品の販売などをしました。1日目は子ども代表委員の岡野さちこさんが中心に、2日目は事務局員えりさん中心に担当していました！また、飲食ブースでは、インドの軽食『サモサ』を販売しました。

2004年10月 3日(日)千代田高校 学園祭に参加

大阪の河内長野市にある千代田高等学校の学園祭に参加しました。3年4組と2年3組では、児童労働を展示のテーマに選んだため、文化祭前の講演の依頼、文化祭でライブをさせていただく機会も頂き参加しました。講演の時には、生徒の皆さんから、最悪の形態の児童労働に関する質問や、貧困、紛争地域、日本との関係について意見が出ました。今回は、FTCJのために愛明に演奏してもらい、ゴスペル音楽のライブ演奏を行い、とっても盛り上がりました！



2004年10月30日(土)子どもNPOメッセin港区立赤坂子ども中高生プラザ

10月30日(土)に赤坂の港区中高生プラザで、日本子どもNPOセンター主催で団体紹介のブース出展をしましたが、残念ながら、殆ど売れませでした。理由としては、雨でお客さんがこなかったということが、考えられます。NLとフェアトレード商品が若干売れ、募金を少しもらいました。

2004年12月25日(土)NPO法人設立記念パーティin早稲田奉仕園

NPO設立総会を終え、クリスマスの日にはパーティを開催し、当日は約100名が来てくれました。

2005年 2月 9日(水)チャリティコンサートinカナダ大使館

今回のコンサートの収益金は、昨年末に起きたインドネシア・スマトラ島沖地震・津波などで被災した子どもへの支援事業のための資金を集めるのが一番の目的でした。そして、カンボジアの性虐待を受けた子どもを救出保護しているHCCというNGOへの募金、インド支援事業のための募金への協力も同時に呼びかけました。コンサートのチケットは290枚ほど売れ、当日会場には270人ほど来て頂きました。

2004年度 アドボカシー事業ニュースレターチームでは、以下の内容のニュースレターを発行しました。

2004年6月発行 No.6

- ・特集 支部かつどう ・NLキッズキャン！コーナー
ーイラストわたしのいきたい学校 ーみんなのちから
- ・みんなの活動報告ひろば ・まりちゃんのスピーチやってみよう！
- ・きほんのき 明学とピアさんの出会い ・インドスタディーツアーの感想
- ・FTCJ夏キャンプおしらせ ・FTCJメンバーおしらせ

2004年9月発行 No.7

- ・とくしゅう・イタリア会議 ・NLキッズキャン！コーナー
ーおたよりコーナー ーNLキッズキャン新購入プラン ーみんなのちから
- ・子ども活動家応援チームより ・みんなの活動報告ひろば（FTCJ横浜）
- ・FTCJ夏キャンプ2004 ・まりちゃんのスピーチやってみよう
- ・FTCJメンバーおしらせ
ーふくしまライブスタッフ募集ー国フェス、拓殖大学文化祭

2004年12月発行 NO.8

- ・とくしゅう・支部活動パート2 ・NLキッズキャン！コーナー
ーみんなのちから ー子ども代表委員、事務局について
- ・みんなの活動報告ひろば（FTCJふくしま） ・論文：わたしにできること
- ・子ども代表委員のページ ・フィリピン訪問記 お知らせ

2005年3月発行 No.9

- ・特集 事務局 ・きほんのき「【前編】児童労働って何だろう？」
- ・NLキッズキャンのコーナー ーみんなのちからテーマ「ホームレスってどう思う？」
- ・みんなの活動報告ひろば（FTCJふくしま、代田七瀬、FTCJ北海道）
- ・子ども代表委員のページ（子ども代表委員の募集、第一回チャット会議報告）
- ・事務局のページ ーNPO法人設立パーティ報告 ーチャリティコンサート報告
ー千代田高校文化祭 ・お知らせ
ー事務局（スピーカー派遣、子ども活動を応援する事務局員募集、夏キャンプ）
ー子ども代表委員（チャット会議に参加しませんか？）
ーメンバー（FTCJふくしま 春ライブ延期、子どもメンバーのみんなへ）
ーメンバー以外（チャリティー・フットサル大会）



海外事業の活動実績

(a) インド学校建設事業 2004年度事業報告

遠藤 恵子

学校建設事業は事務局の大学生メンバーが中心になってプロジェクトを進めてきました。

2004年度は、

- ★ FTC インターナショナルをサポートする形で、インド(アンドラプラデシュ州)に小学校を建てること。
- ★ インド(バンガロール市)の団体と協力して、芸術をたくさん取り入れた小学校を建てること。
- ★ 日本で集めて英語に翻訳した絵本を、インドで建てた学校に贈ること。

という3つの大きな目標を立てて活動してきました。9月には実際にインドに行って、インドの人たちと学校を建てるための作業をしたり、学校を建てる計画について話し合いをしたりしてきました。

けれども残念なことに、この3つの目標は達成することができませんでした。同じ目標を持っていても、やり方や考え方の差に大きな違いがあったので、一緒に事業を進めていくことは難しいと判断したのです。

学校がまだ一つも建てられていないことはとてもチームメンバーにとってもすごく残念なことですし、それ以上に寄付をくださった多くの方々に対して申し訳ない気持ちでいっぱいです。逆に、みんなが一生懸命集めてくれた寄付金だからこそ、団体として納得できるような使い方をしていく必要があります。そのために、今年度こそ、信頼できるパートナーと一緒に世界の子どもたちの教育の機会を増やしていけるようなプロジェクトを成功させなくてはなりません。そのために、子どももおとなも関係なく、ぜひ海外教育支援事業に参加してください！絵本の翻訳(日本語から英語にする)ボランティアさんも募集しています。

2005年度は、「海外教育支援事業」という新しい名前でスタートしました！インド以外の地域にも教育支援を考えています。以下のプロジェクトがすでに始まろうとしています。これからは大学生にだけじゃなく、色々な人に積極的に関わってもらえるような事業にしていきたいので、興味がある人は気軽に連絡ください！一緒に考えて、一緒に活動していきましょう！！★★★

(b) FTCJ関東学院サポーターの活動報告

大窪 杏菜

FTCJ関東学院サポーターは2003年秋に関東学院内のサークル「フェローシップ」でFTCJ事務局長の中島早苗さんがFTCJと児童労働についてスピーチしたことにより、児童労働について興味を持った数名の在学生により、2004年度からFTCJ関東学院(2005年度より関東学院サポーターと名称変更しました)が発足されました。

2004年度はフィリピン支援をメインとして、まずは児童労働について知ろうと勉強会を重ねてきました。また、勉強会とは別に、月に1回ぐらいのペースでそれぞれメンバーの不用品などを持ち寄り、フリーマーケットに出展をしました。これは収益をフィリピンにあるNGOやフィリピン支援事業に寄付するためと、FTCJの看板を作り、少しでも皆に知ってもらうためです。

フリーマーケットの出展回数は7回にのぼり、純利益は41,112円となりました。そしてその利益からフィリピン支援事業チーム主催のスタディツアーに行く際にお世話になったフィリピンのNGOにプレダ、タタグ、KPACに寄付として各1万円ずつ渡してきました。

2005年度の収益もフィリピンの団体に寄付する予定です。

FTCJ関東学院サポーターのメンバーはフィリピン支援事業チームにも属しているメンバーが多く、フィリピンへのスタディツアーに関東学院大学からは2人参加してきました。その経験をもとに、関東学院内でスタディツアー報告会をしました。また2005年度の関東学院の学祭でフィリピンや児童労働について展示をする予定です。



関東学院サポーターは2005年度現在、フィリピン以外の国にも視野を広げ勉強会をし、またFTCJ関東学院サポーターのホームページを作る準備をしています。

文責：大窪杏菜（関東学院大学3年 FTCJ関東学院サポーターリーダー）

(c) フィリピン支援事業

中島早苗

フィリピンの現地NGO「タタグ」と「プレダ基金」と協力してフィリピンの子どもを支援しました。

- ・タタグ支援事業・・・「文通プロジェクト」を通して日本とタタグで支援を受けているストリートチルドレンが手紙のやりとりをして、ともにつながれるようにしました。また、同時にタタグへ支援金を送り、これらはストリートエジュケーションを実施するための資金や、ストリートチルドレンへの文房具、医薬品、食費などに使われました。
- ・プレダ基金支援事業・・・プレダ基金が行っている「ジェイル・レスキュープロジェクト」に対して支援金を送りました。このプロジェクトは、何らかの理由で(時として冤罪の場合も)刑務所に入れられた子どもが刑務所で暴行を受けるなど不当に扱われたり、権利を奪われている状況がよくあるため、そのような状況にいる子どもを解放しプレダで保護し、リハビリや教育を提供し、刑務所に入った子どもを社会に戻すための事業です。FTCJから送った支援金は、このプロジェクトを運営するための資金(子どもの食費、裁判費用、職員の人件費など)に使われました。
- ・国内での活動・・・関東学院大学にてFTCJ大学生チームが結成されるなどしました。その後、他大学のメンバーが参加し大学を超えてフィリピン支援事業チームが構成されました。関東学院大学メンバーでは、勉強会を実施しフィリピンを支援するための知識を学ぶ機会を自主的に作りました。また、フィリピンの支援先の子どもたちの現状を知らせ、資金調達のためにも、横浜でフリーマーケットを定期的に開きました。このように、最初は大学生メンバーが中心に事業を担っていましたが、子どもメンバーにも参加してもらえるようにスタディーツアーの企画、実施を行い、今後子どもメンバーがフィリピン支援事業に参加しやすい土台づくりを行いました。

プロジェクトリーダー：中島早苗、補佐 吉岡加奈
フィリピン支援事業チーム人数：21人



スタディーツアー

フィリピン・マニラ市、オロンガポ市のNGOを訪問し、日本の中高生(8名)とフィリピンの子どもととの交流の機会を設けました。またフィリピンの状況を把握しパートナー先であるNGOから要望や意見を聞き、支援事業を見直し今後の活動につなげていくよう情報交換をしました。